

平和の鐘を鳴らそう 2022

平和についてメッセージ集

Peace for Tomorrow

広げよう平和の心

2022年8月15日

広島ユネスコ協会

平和の鐘を鳴らそう 2022

本日、77年目の終戦の日を迎えました。「平和の鐘を鳴らそう」の集いは、今回で21回となります。

今年2月24日のロシアによるウクライナへの軍事侵攻から、半年が過ぎようとしている中、現在もなお多くの尊い人命が失われており、更に、ロシアが核兵器の使用を示唆し、威嚇したことは、人類に対する挑戦であり、到底容認できるものではありません。

人類を破滅させる核兵器の存在が永遠に私たち地球市民に脅威を与え続ける以上、核兵器の完全廃絶しか道はありません。

私ども広島ユネスコ協会は、「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない」というUNESCO憲章の理念のもと、「ヒロシマ」の心を大切にし、今後とも草の根の平和活動に取り組んでまいります。

今日は、戦争犠牲者の方々を慰霊するとともに、戦争や核兵器のない世界恒久平和の実現を願い、一人ひとりがしっかり思いを込めて、平和の鐘を鳴らしましょう！

2022年（令和4年）8月15日

広島ユネスコ協会 会長 松岡 盛人



平和についてメッセージ集 目次

平和へ願いを込めて	(ページ)
広島ユネスコ協会 理事 中本 信子	・・・ 1

次は、高校生3人が書いた平和についての本日のスピーチ原稿です。
本日は3人のスピーチを直にお聴きになり、後ほどこのスピーチ原稿をお読みいただくと、理解がより深まると思います。耳が聞こえない方には、この場でお読みいただくことができるよう、バリアフリー資料として配付します。

わすれずに思うアオギリのうた これから生まれてゆく	
広島大学付属高等学校 ユネスコ班 神尾 惺那	・・・ 2

Aim For A Peaceful World	
広島大学付属高等学校 興野 美優	・・・ 3

平和の鐘を鳴らそう 2022	
第25代 高校生平和大使 広島国泰寺高等学校 荒川 彩良	・・・ 4

海外の近い都市にあるユネスコ協会からも、平和のメッセージが届きました。

みんなのための平和	
韓国ユネスコ大邱協会 会長 申 東鶴 (シン ドンハク)	・・・ 5

平和へ願いを込めて

被爆、ユネスコ、死没者名簿記帳

私にとってユネスコは、遠い夢の憧れの存在でした。崇高な精神の下、平和を愛し、真理を求める人の特別な集まりであって、自分には手の届かないものと思っていました。

数年前小学校のクラス会があった時、担任だった末重文男先生（現・広島ユネスコ協会理事）から、ユネスコ協会への入会を勧められ、今日に至っています。初めは、時々参加する程度でしたが、ユネスコの「国際協力を通じて、平和な世界を目指す国連の専門機関であり、教育や科学・文化の振興を通じて、戦争の悲劇を二度と繰り返さない」という理念に共鳴し、意識を変えました。

私は被爆者とはいえ、当時3歳になったばかりで、原爆の恐怖を覚えていません。しかし、広島市民として、平和教育や本・絵画等体験や実相を知るにつれ、心を動かされ、反核・平和を若い人に伝えなければならないという使命感にかられました。

私はまた「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない」という、ユネスコ憲章の前文に特に心揺さぶられました。

今、私は広島市役所から「広島市原爆死没者名簿」の記帳を依頼され、今年で22回目を迎えました。昨年の8月6日までに名簿に登載された死没被爆者の総数は、32万8929名を数えます。今年は、6月末現在で4548名が確認されています。

広島は77年前、原爆投下により、焦土化し悲惨な街となり、未曾有の被害をもたらしました。被爆者の平均年齢も80歳を越え、直接、体験を伝える機会が失われています。戦争の過去を知り、未来へつなげていく若者が今こそ必要なのです。「平和を思うその心」が砦となります。音楽や絵画・演劇等、文化的な表現活動・学問や科学が同様に砦となり、一層強固なものになるでしょう。

平和へSDGsの活動が不可欠です。ユネスコは大切な役目を果たしています。ウクライナの平和が取り戻されることを願いながら、この夏も心を込めて原爆死没者のお名前を記帳します。

広島ユネスコ協会 理事 中本 信子

わすれずに思うアオギリのうた これから生まれてゆく

『遠いむかしのできごとを わすれずに思う アオギリのうた
これから生まれてゆく 広島を大切に』

これは、この平和公園内でも聴くことのできる『アオギリのうた』の一節です。先日、ユネスコ班の活動の一環として碑巡りをした際に数年ぶりに耳にし、印象に残った歌詞であるとともに、私の思いと重なる部分もありました。

私は広島で生まれ、今日まで育ちました。ここ広島は、平和都市として世界に知られています。原爆投下後の焼け野原となったヒロシマのまち。今もなお放射能の被害に苦しむ人々。小さな頃から広島に起きた出来事の話も多く見聞きしてきました。そうした体験を経て、私は、戦争の恐ろしさを知ることができました。

戦争を知る世代は年々減少し、全国の被爆者の数は現在では10万人ほどになりました。このような状況の中で、戦争の実態を知ることとはとても意義があることです。広島や長崎、沖縄など、戦争で特に甚大な被害を被った地域だけでなく、日本中の人々、そして世界の人々へと過去の出来事を語り継いでいく必要があります。

また、私はあるときから、平和とは何だろう、とも考えるようになりました。ですが、今までほとんど何の不自由なく暮らしてきた私にとって、それは難しい問題でした。それと同時に私がいかに漠然と平和を捉えていたかを自覚しました。

そんな私ですが、ここ数年で起きた出来事により、平和というものを意識するようになりました。感染症による突然の休校、軍事侵攻、著名人の死。どれもが衝撃的な出来事でした。学校に行き、友人と会い、ともに学び合えることが当たり前ではない、とても幸せなことなのだと感じられました。

平和には人によって様々な考え方があると思いますが、私は小さな幸せの積み重ねから生まれるものだと思います。戦争の恐ろしさを知り、それを伝えることだけでなく、一人一人が感じた幸せを、平和の大切さを共有し広げていくことこそが私たちにできることであり、平和への第一歩となるのではないのでしょうか。

遠いむかしのできごとをわすれず、これからの平和な世界を作り上げる1人として、今日は、この鐘を鳴らします。

2022年8月15日

広島大学附属高等学校 ユネスコ班 神尾 惺那

Aim For A Peaceful World

Hello, everyone my name is Miyu Kohno. I am a high school student in Hiroshima.

Today is 77 years since the end of World War II in Japan. Japan lost the war and the whole country was burned to ashes. It may be difficult to think of war from how Japan looks today, but if you look at the whole world, war is going on, and it is not much different from 77 years ago.

On August 6, 1945, the world's first atomic bomb was dropped on Hiroshima. Have you ever visited the Hiroshima Peace Memorial Museum? As soon as you enter the museum, you can see a photo of the center of Hiroshima before the atomic bomb was dropped. You can sense that Hiroshima was a very lively and bright city. Next, you can see a photo of Hiroshima right after the atomic bomb was dropped. You can see at a glance how much a single atomic bomb changed the city became a dark, empty city in an instant.

Also, near my school, there is a photo of the bridge after the atomic bomb was dropped at Miyukibashi, two kilometers from the epicenter. I was shocked to see this photo of people walking with burns and melting skin, and to learn that this kind of tragic thing happened near the school a long time ago.

We deprive children of their right to study and adults of their right to speak freely. They are frightened by the sight and sounds of the war, and this fear prevents them from sleeping, and their right to sleep calmly. Even the most important right to survive is not protected. Therefore, war is called the greatest violation of human rights.

Now that atomic bomb victims are getting older, it is becoming difficult to convey the damage caused by nuclear weapons. We need to learn more about the destruction caused by atomic bombs and communicate it to future generations.

In the midst of wars around the world, the G7 summit will be held in Hiroshima next year. It is a great opportunity to appeal to the world for peace and an end to the misery of war. Peace is something that we can build by helping each other. So, we have to think about what we can do for world peace.

In Ukraine, daily life is shattered and families are torn apart. The fear and sadness of Ukrainians is the same as Hiroshima citizens experienced 77 years ago. We must never forget past wars. Let's learn about the war in Hiroshima and continue to talk about it, and aim for a peaceful world in which human rights are protected.

Thank you for listening

広島大学付属高等学校 興野 美優

平和の鐘を鳴らそう 2022

皆さん、こんにちは。第 25 代高校生平和大使の広島県立広島国泰寺高等学校の荒川彩良です。

今から 77 年前、1945 年 8 月 6 日 8 時 15 分。たった一発の原子爆弾が広島市の上空約 600m で炸裂しました。広島に強烈な熱線、放射線が降り注ぎ、巨大な爆風が家屋をなぎ倒しました。

そして当時の広島の人口の 40%、約 14 万人の尊い命が年末までに失われたと言われています。非人道的にただそこに生きていた罪のない人々が無惨に亡くなったのです。残された人々も日常を失いました。家族を失いました。希望や夢を奪われました。後遺症や差別に苦しみ、その後の生活にも大きく影響を受けました。

今、被爆者の人数は全国に 13 万人ほどいらっしゃいますが、原爆の記憶を語ってくださっているのは 1% 以下の 100 人ほどです。それだけ、その時の記憶は凄惨であり、語り始めると昨日のもののよう蘇るのでしょうか。また、今でもその記憶に苦しみ続けているということなのです。

そして、被爆者の方の平均年齢は 80 歳半ばとなっており、被爆者の方は年々少なくなっています。また、日本は唯一の戦争被爆国であるのに原爆の記憶の風化が進んでいます。

ロシアのウクライナ侵攻により、核抑止や各共有の話をよく聞くようになりましたが、核を持つという事は、使う可能性もあり、加害者となり得るということを示します。あの広島、長崎の惨劇を繰り返す可能性があるということなのです。

戦争被爆地広島、長崎だけでなく戦争被爆国、日本として、今こそ核兵器廃絶を訴えていく必要があります。

若者である私たちにできることは、自ら原爆や平和について学び、被爆者の方から被爆体験や平和への思いを受け継ぎ、次なる伝承者となることではないでしょうか。

非人道的な核兵器の恐ろしさ、一瞬で多くの尊い命が散ってしまう非情な兵器の廃絶を日本全国にそして世界に発信していくことが必要です。

「微力だけど無力じゃない」これは高校生平和大使のスローガンです。私たちの声はたくさんの人には届かないかもしれませんが、ですが、全くの無力ではないのです。

自分の言葉で発信していき、私たちの周りから少しずつ、核のない平和を思う気持ちの連鎖を作っていきましょう。

第 25 代 高校生平和大使 広島県立広島国泰寺高等学校 荒川 彩良

みんなのための平和

2022年8月15日、終戦77周年の記念日を迎えるにあたり、世界平和実現に向け国際社会に積極的に貢献してきた日本国政府と平和を愛するすべての日本国民に敬意を表し、私たちみんなの平和を願うメッセージを送ります。

今年は世界中至るところで、国家利益の衝突による紛争が続発しています。とりわけロシアとウクライナの戦争は悲劇的であり、数多の人命の殺傷と財産の破壊、ウクライナ国民の生活と経済基盤の崩壊、自由と人権の侵害等、戦争の惨状を言葉で言い表すことはできません。

それだけではなく、その影響で世界的に貿易と人的交流が委縮しており、私たち国民にとって日常生活に必要なエネルギーと食糧が不足したため、急激に物価が上昇し経済的に心配な状況です。そのため国際的にも政治と経済が不安定になり、国家間の対立で緊張が高まっています。

このような状況下において、経済力に乏しい開発途上国や貧困層の多くが犠牲を強いられています。戦争が引き起こすこのような状況を目のあたりにし、私たちは改めて平和の大切さを実感します。

したがって、すべての国のリーダーはもちろんのこと、私たちみんなの胸に人類愛を刻み、平和の鐘を鳴り響かせ、憎悪は愛に、闘争と復讐は和解と容赦になるように向かわなければなりません。

ですので私たちは、互いの利益の衝突と紛争が発生した状況であっても、銃ではなく対話と協力を選び、平和的方法で問題を解決するべきです。

このため私たち自らが平和を愛し、平和が脅かされているという問題を解決し、争いのない平和な世界にするため、対話と協力を家族や隣人とともに実践するべきです。日韓両政府と国民みんなが知恵を出し、協力し実践し、世界平和が実現するよう粘り強く努力しましょう。

私たちみんなの平和のため、平和の鐘を大きく鳴り響かせ、ユネスコの理念で世界平和を力強く実現しましょう。

2022年8月15日

韓国ユネスコ大邱協会 会長 申 東鶴（シン ドンハク）

（日本語訳 渡邊優子）

けんしょうぜんぶん
ユネスコ憲章前文より(抜粋)

せんそう ひと こころ なか う
戦争は人の心の中で生まれるものであるから、
ひと こころ なか へいわ とりで きず
人の心の中に平和の砦を築かなければならない。

Preamble of The Constitution of UNESCO

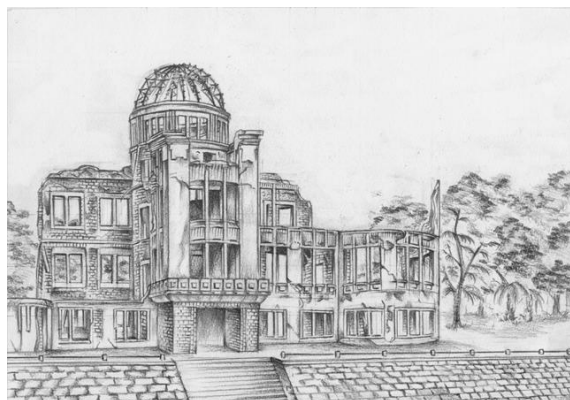
Since wars begin in the minds of men, it is in the minds of men that the defenses of peace must be constructed.

へいわせんげん
わたしの平和宣言

Manifesto 2000 for a Culture of Peace and Non-Violence

- | | | |
|--------------------|---------------|-----------------------|
| ○ すべての人の生命を大切にします | せいめい たいせつ | Respect All Life |
| ○ どんな暴力も許しません | ぼうりょく ゆる | Reject Violence |
| ○ 思いやりの心を持ち、助け合います | おも こころ も たす あ | Share with Others |
| ○ 相手の立場に立って考えます | あいて たちば た かんが | Listen to Understand |
| ○ かけがえのない地球環境を守ります | ちきゅうかんきょう まも | Preserve the Planet |
| ○ みんなで力を合わせます | ちから あ | Rediscover Solidarity |

(『わたしの平和宣言』は、1998年に開かれた国際人権会議に集まったノーベル平和賞受賞者が起草した6項目の誓い。項目のタイトル部分)





広島大学附属高校 ユネスコ班 神尾惺那さん



広島大学附属高校 興野美優さん



第25代高校生平和大使
広島県立広島国泰寺高校 荒川彩良さん